訓譯
全像二十四孝
完

八

初頴日記故事

訓譯

全像 二十四孝

五老山人譯

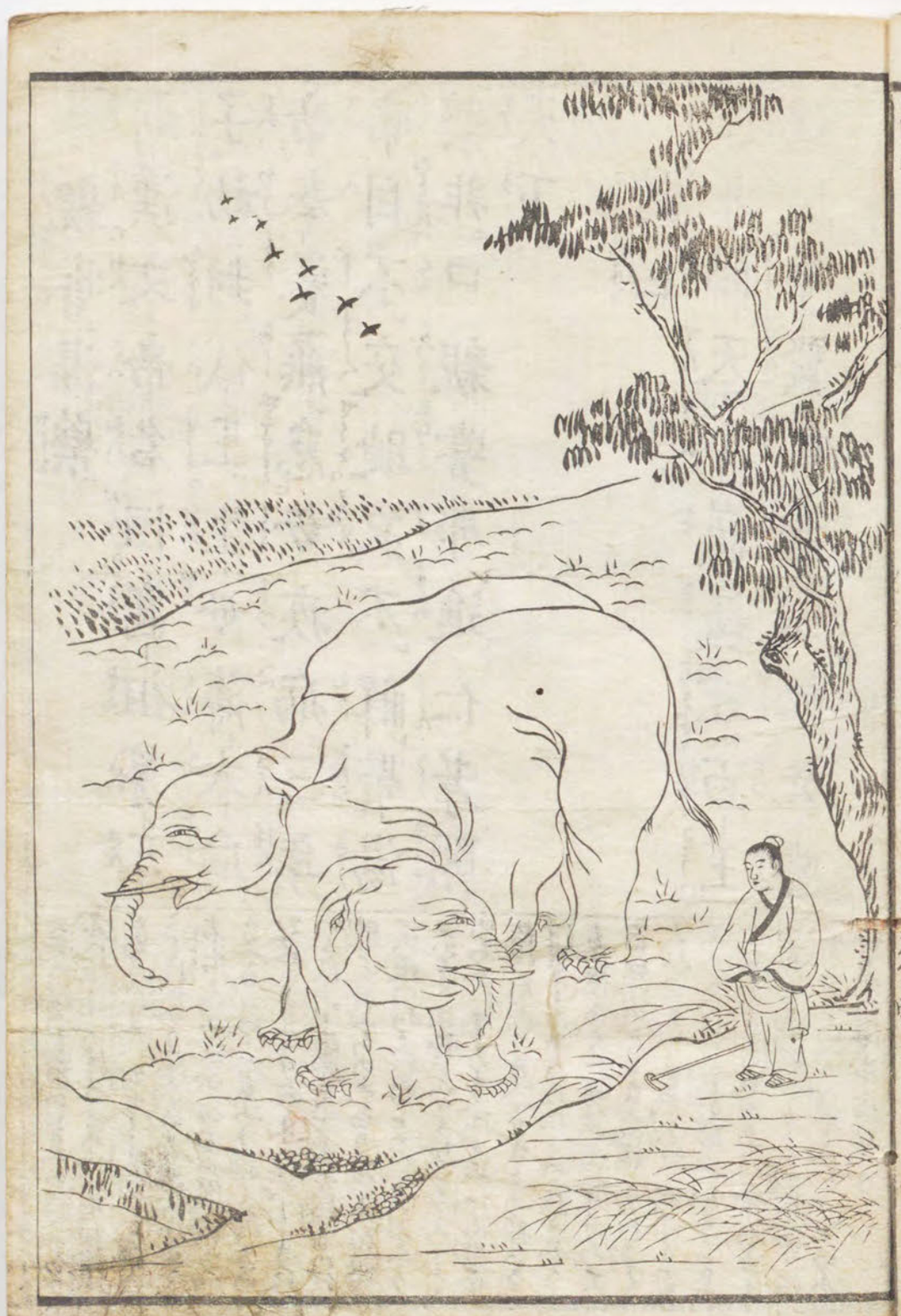
菖溪主人畫　耕書堂發行

石川藏

初頴日記故事二十四孝序

嘗觀之執禾者。禾之幼。必灌又觀之植木者。木之稚者。必毋傷其根搖其本。而乃善於養木也。惟幼孝亦然。童子者成人之漸。要必端以蒙養教也。教之以孝。使之篤於親。教之以友。使之敬於長。教之忠信。使之心不欺而言必實。茲則養童蒙之方也。然此有古人之繩墨在。茲集故叟。凡孝友忠信。門分類析日記數條。以作上達之階梯也。因名之初頴初頴者何。謂其開頴悟於初也。即譬植樹養善於培養。俟其成。則可以桂明堂。而棟大廈。執禾者善於培養。得其熟。則可以爲國之精粮。世之大寶。

忠信堂主人識



孝帝類

孝感動天

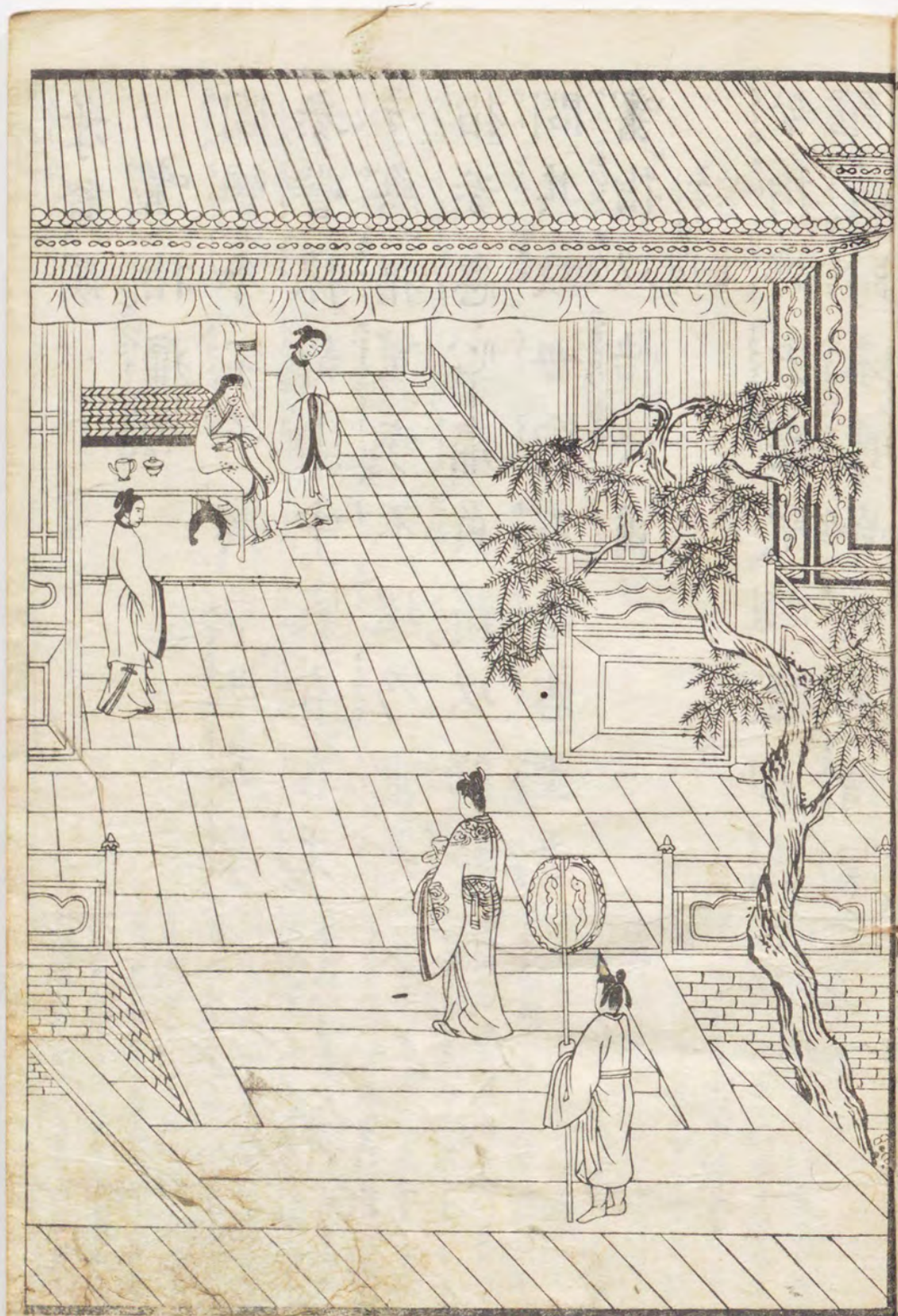
虞舜。瞽瞍之子。性至孝。父頑。母嚚。弟象傲。舜耕於歷山。有象爲之耕。鳥爲之芸。其孝感如此。帝堯聞之。事以九男。妻以二女。遂以天下讓焉。

詩曰

隊隊耕春象。紛紛芸草禽。

嗣堯登寶位。孝感動天心。

虞舜国の名舜と諱なり御名い重華とも。瞽瞍は舜の父なり瞽瞍とは目なしなりのことなり舜の父目ありながらものいはざるをいふなり母は性なりなる故母乃人瞽瞍とゝひ云ふ性とゝいふはれつきなり舜乃性親の孝あり父頑とゝいふは愚なるなり嚚とゝいふは愚云と出とゝ象とゝ舜の弟傲とゝいふは礼儀とゝなぬ父母はいかゞなるとも乃おのれはいざるゝ舜とゝ歴山とゝ象とゝ農業をしの以象すゝめて田のくをとゝひきとゝかとゝいふ事堯とゝ時の帝とゝき事を受てあしは九人を舜のにくひ人とゝ二人のにむすめを舜の妻と臣をつかひて舜に天下を譲りゝひとゝなりとゝ。隊とゝいなとゝひて田のくをとゝ紛とゝ芸花草とゝ芸とゝ禽とゝ鳥とゝ寶位とゝ天子の位をつゝ堯帝のわとを嗣で天子とゝなり孝感動天心の舜の孝を感ずるなりとゝ



親嘗湯藥

前漢文帝名恒。高祖第三子。初封代王。生母薄太后帝奉養無怠。母疾病三年。帝目不交睫衣不解帶。湯藥非口親嘗弗進。仁孝聞天下。

詩曰

仁孝臨天下　岧嶤冠百王
漢庭事賢母　湯藥必先嘗

文帝ハ漢の高祖の第三の子なり名ハ恒と云ふ高祖の薨して諸侯となり代王に封せらる生母を文帝の薄氏なり帝の母を太后と云ふ文帝母太后ふせうにあつる急せまつり薄太后なやみつの三年のあいだ目をとぢ睫をとぢ衣帯をとかぬなり文帝目をとぢ睫をとぢ衣帯をとかぬ孝心共に天下にきこえ万民その徳をあはきしとなり○仁とハ民を安んずる法なり仁孝の二ツをもつて百姓にのぞむを岧嶤と云ふ大ひなるかたちまた世ふるまひ百王と天子の数あまたかたちを岧嶤と百王の冠冠乃帝なりとなり世冠とハ衆の中に首なるをつて庭とハ宮中をいふ賢母ハ薄太后なり

孝賢類

囓指痛心

周曾参字子輿。事母至孝。参嘗採薪山中。家有客至。母無措。望参不還。乃囓其指。参忽心痛。負薪以歸。跪問其故。母曰。有急客至。吾囓指以悟汝爾。

詩曰

母指纔方囓。兒心痛不禁。負薪歸未晩。骨肉至情深。

周ハ国の名。曾ハ姓。参ハ名なり。曾子孝のきこえあり。孔子孝の乃を曾子に学ぶこと。きうせ。事母ハ事母親。採薪ハ薪をとること。山中ハ山のなかなり。家有客至ハ家にきゃくのきたりしを。無措ハ無措置。望ハ待望。不還ハ不帰。乃囓其指ハ乃其指を囓。負薪ハ薪を負。跪ハ膝をつく。悟ハ覚。爾ハ汝。

○母のゆびをすこしかむるなり。子のこころ通じていたみをそこなはんとおもひかつ母のまつかとこほりそのゆびを問ひ給ふ。母のいはくふかうふかの来まつ友ふつがゆびをくみあるが通じてなんぢがむねいたみてはやくかへるなりといへり

○母のゆびをすこしかむるなり。子のこころ通じていたみをそこなはんとおもひかつ母のまつかとこほりそのゆびを問ひ給ふ。母のいはくふかうふかの来まつ友ふつがゆびをくみあるが通じてなんぢがむねいたみてはやくかへるなりといへり

負薪歸未晩。骨肉至情深。

これまでいへる母やゆ骨肉の情のこころ深きこと。ありてこそ。

單衣順母

周閔損字子騫。早喪母。父娶後妻。生二子衣以綿絮。拓損衣以蘆花。父令損御車。体寒失靭。父察知故欲出後母損曰。母在一子寒。母去三子單。母聞悔改。

詩曰

閔氏有賢郎。何曾怨晩娘。
尊前留母在。三子免風霜。

周閔の名閔は姓換の名孔子の門人なりとさのくて母にをくれさる父後妻をむかへて子どもが二人のこをうゝる後妻おのれがこをみにいつくしのへさる衣をあたゝかなるをきせ子寒をみくるしき衣をきせつゝ父よ寒ふ云つゝ車を御せしむ御とゝ車を母ふ支ゆりて寒ふ衣ふつゝきれば体こゝ〳〵靭を失ひて靭い車をゝりてつゝるゝ寒ゆり父南ゝ母が恣ゝを推察し後立てほまを出さんとしまりをとゝ寒ゝるめて母をとひ問しの死の衣ふもせよ寒きゝ我をゝ人母をさりゆゝて子供二人をもいてゝゝ衣しゝゝそきかゝべしといひりまゝ母この問を聞て母のゞ悪んを改しゝゝ

○賢郎といかゝときむすこなり晩娘は後の母の閔氏かゝこなよゝいそゝ母ゝ母をゝゝまんそゝおは父のまゝ父の前母をとゝめさゝゝめば三人のこ風霜の寒をまぬかれゝゝ

為親負米

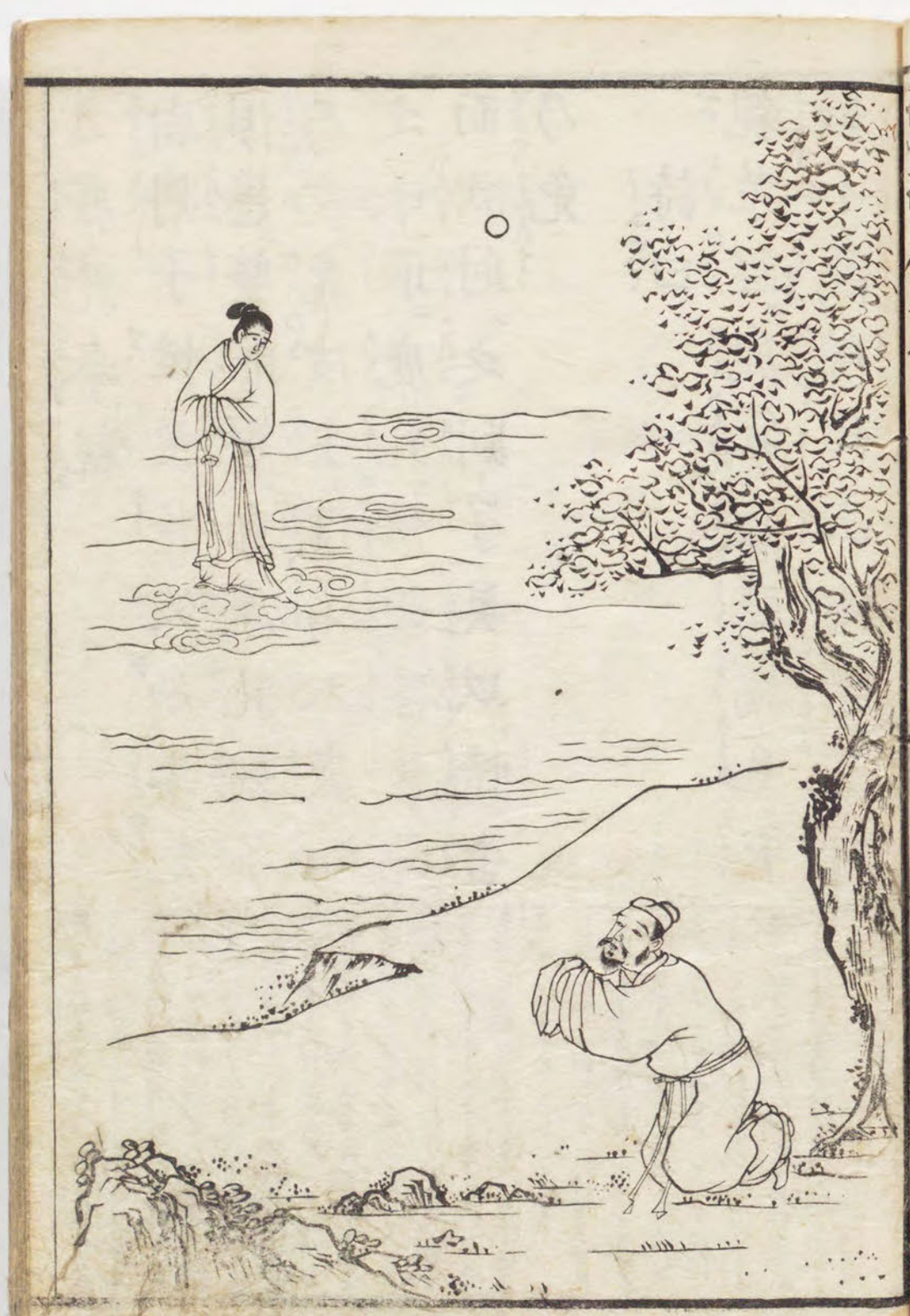
周仲由字子路。家貧嘗食藜藿之食。為親負米百里之外。親沒。南遊於楚。從車百乘。積粟萬鍾。累裀而坐。列鼎而食。乃嘆曰。雖欲食藜藿為親負米不可得也

詩曰

負米供甘旨。寧辭百里遥。身榮親已歿。猶念舊劬勞。

孔子のでしなり。まづしきをれば藜藿を食ふとは惡あらさいふ草藿は豆の葉なり親と中あがみは米を百里の遠きこゝろせをひて行あり歿して後南の方楚の國の方へいたりさて身さかえなりしかれば後車百乘と云四頭とかきたる車と百乘を引たる人積粟とは米をおもつて高くつみあり鍾とは量の器七八石なり累とは物なり裀はしきものなり鼎は茶碗のやうなる物なり列とは鼎をならべ食する也かく富貴なる身なれども親をおもふて云ひしかとのごとく身まづしくて藜藿を食ひ米を負てなりとも親のためにつとめ盡すべきなり

○甘旨とは食にうまき味ひの物歟よそのつる俗をいふ百里の遠きに米を負ふとも心ざしとをぬるなり身出世して親の夫のひぬれば育のひ劬勞の恩いとれば



孝子類

賣身葬父

漢董永家貧父死。賣身貸錢而葬。及去償工。途遇一婦。求為永妻。俱至主家。令織縑三百疋乃回。一月完成歸至槐陰會所。遂辞永曰。我天之織女也。言訖凌空而去。詩曰

葬父貸孔兄。仙姬陌上逢。織縑償債主。孝感動大公

漢の代の董永家貧にして父死す。葬を貸りて父の葬の費にあてゝ身を賣りて債主となりしかるに公卿これをあはれみ給ひて官職を賜ひ父の墓をなしそれをうりて人のもとへ行僕となりてまづしき役をつとめひにちをすごしてのち二人の女に行ひあうこの女童永が妻となりこんといひしかれどもこれを人の家にゆきしれる人のもとへ縑三百疋を織こんとこれ迄らと約束をなすべしこれをもつて月の内にこれをおりあげんとこの女童永が妻となりて日数八天帝乃ち織女なりしかるにこれを天帝の御ひめとつくのかし給ひ我が命にしたがひて天のがり去りしとかや

○孔兄とは孔の長兄なるべし

他人の縁をかりなれば途中にあふる仙姫がたりのきぬを取りて債をはらつくのひにこれをうりひとゝふ天の織女が孝をもつて感動ありしゆへなり

鹿乳奉親

周剡子性至孝。父母年老。俱患雙眼。思食鹿乳。剡子乃衣鹿皮去深山。入鹿群之中。取鹿乳供親。獵者見而欲射之。剡子具以情告。乃免

詩曰

親老思鹿乳。身掛褐毛衣。
若不高聲語。山中帶箭歸。

周の代に剡氏といひ人名字をもちゐず。うまれつき孝にして父母老て眼をうしなふ。父母鹿の乳へ眼をいやす事なりとそこれを聞んとて剡子鹿乳をとらんと鹿の皮をぬぎすてひとり出れば深山へ入りむらがる鹿の中へ入て鹿の乳をとりて父母に奉つる時に獵人ありて剡子が鹿の皮をきるを鹿なりとて後ろ弓をつがへ剡子獵人に向ひ親のために鹿乳をとらんとて山へ入るをつゐにかくしられば獵人手負ひをかんじ弓矢を捨てあやまりとなり

○さて老たる親の鹿乳をのまんすとのそむゆへに褐毛と毛にて衣をきて山へ入りしをありこの時声をさくなりてものいふをかくしたべば山中まで捨りひらべ矢にて中り帰るべきを孝心を天のめぐみをひてあやまち矢をのがれをのれ帰なり

行傭供母

後漢江革少失父獨與母居遭亂負母逃難數遇賊或欲劫將去革輒泣告有老母在賊不忍犯轉客下邳貧窮裸跣行傭以供母使身之物莫不畢給

詩曰

負母逃危難窮途賊犯頻哀告俱獲免傭力以供母

後漢の代に江革字は子真といひし者なりけり。幼くして父を亡なひ母とともに住居しけるが世の中そこれかしこと賊徒蜂起して人民離散し賊のあひてうとの中にて革母を背負ひ山まゆんとしけるに賊徒向ひ来りて母をうばはんとせしかば革泣くこと甚しかりければ賊徒これを哀れみ母をうばはずして革を捨てゆきぬ。革母を背負ひ逃れて客下邳といふ所にゆきて傭ひ人となりて母を養ひ給ひけるが貧窮にして裸足にて行くこと甚だ難儀なりしかども母を養ひ給ひけるが賊徒の難にあひて母を奪はんとせしかば革母を背負ひ逃れて傭力をもつて

懷橘遺親

後漢陸績年六歳。於九江見袁術。術出橘待之。績懷二枚。及歸拜辭墮地。術曰。陸郎作賓客而懷橘乎。績跪答曰。吾母性欲歸以遺母。術大奇之。

詩曰

孝悌皆天性。人間六歳兒。
袖中懷緑橘。遺母報乳哺。

後漢の末に陸績字は公紀という人ありけり九江の袁術と申すとしてありけるに袁術橘を出して陸績に与へられけるに陸績橘二枚を懷ろに入れんとしたれば袁術橘ゆゑ懷ろに入るゝ事なるらんと問ひたまへば陸績跪いて答へ申すは吾母性橘を好みたまふ故に袁術の家に来たりて橘を懷ろに入れ持ち帰りて母に与へんと思ひ入れたるなり袁術大きに感じ給ひて陸績を賞し給ひけり

○孝悌の道は天性なり人間六歳の児なりとも袖の中に緑橘を懷ろに入れて母に与へ乳を乞ふる母の恵みを忘れざるは天性なり

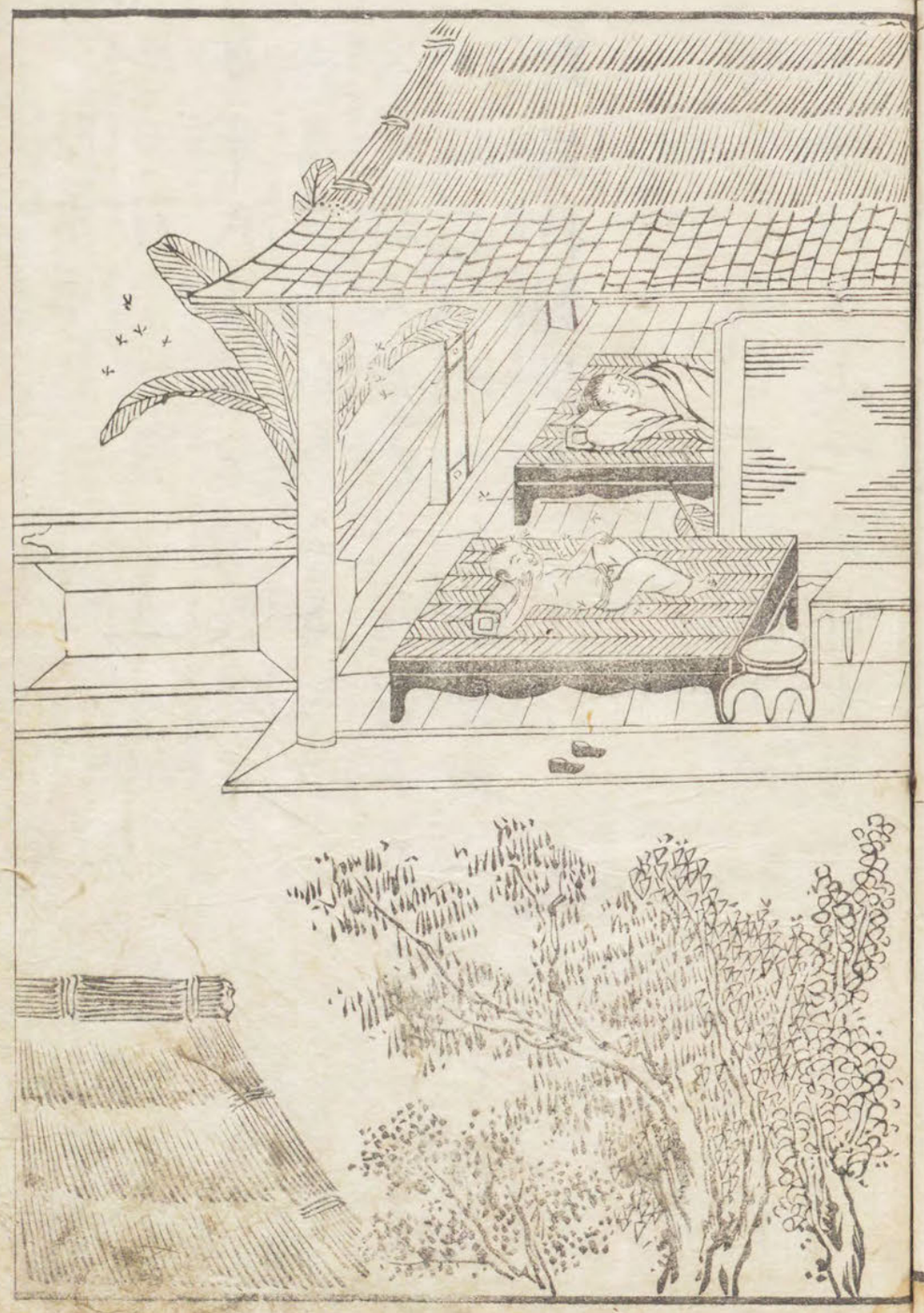
孝婦類

乳姑不怠

唐崔山南曾祖母。長孫夫人。年高無齒祖母唐夫人。毎日櫛洗升堂乳其姑。姑不粒食數年而康。一日病。長幼咸集乃曰。宜言無以報新婦恩。願子孫婦如新婦孝敬矣。詩曰

孝敬崔家嫗。乳姑晨櫛梳。此恩無以報。願得子孫如

唐の時崔山南とゆうの人のひめ。長孫夫人といふ。年あをと齒ありしとあり崔山南が祖母の唐夫人の長孫夫人のまゝはゝのありし唐夫人姑とゆ姑を乳して長孫夫人の居室に入ちうなる長孫夫人ゆ乳を飲せしとあり長孫夫人齒なくて數年のあいだ飯をくゝまずあさゆふまゝども乳をのめるゆへすこせうあそかりしとそある日大ゆまうつくひて孫らとゝく惱のりとゆまりりるとに長孫夫人の曰つまとゝあの母ゆむくひんゆ祖母のゆたしうと孫りうくゆ我ゆ孫のゆめとなりんものの唐夫人のごく姑ゆ孝ゆれうしとゆうありと云くゆ卒うりとし唐帝その姑ゆ孝ゆうゆをきこしめされ崔氏の門よをのゆをかきつけ表してゆめゆひしせ孝敬とゆうゆくうる崔家ゆ嫗唐夫人姑に乳をあとゆ孝ゆうゆ孝くゆ孝ゆまゆひ髮ゆつりせなり姑のゆに朱婦の母ゆ櫛んゆ梳がくゆ孫りくゆ孫りくゆのとゆ孝ゆうくゆゆあまと迷云せゆくゆの



若孝類

恣蚊飽血

晉吳猛年八歲。事親至孝。家貧。榻無帷帳。每夏夜蚊多噆膚。恣渠膏血之飽。雖多不驅之。恐其去而噬其親也。愛親之心至矣

詩曰

夏夜無帷帳。蚊多不敢揮。恣渠膏血飽。免使入親幃。

賢代は吳猛といふ人八歲のころより親に孝行の家りとうまつ
かりしとなり榻とは木林のせばんを云
なり孫ゑ湯の基ゆり帷帳とは幔の
ゆゑなり負られはくもの和しつ是
夏の夜は蚊扨りくあつまりきたるを
吳猛これを扨ふさりしひはた扨れが
血をすはせく飽くるまむ蚊のきた
るふと扨はきれどもを遮ざるはもし
己を去て親を噬んとを扨されて
なり扨やをいとりしむろんゑて
蚊くきまり扨こまりと
○夏の夜に帷帳のゆゑひなくと
蚊扨りくきくれどもあくうちふ
るふとをなくこゑかまをりひまく
こさせく膏血と身のゆゑくと血を
飽まくさはしめ扨やの孫ごろの
うちに蚊の入くんとをまぬれし
めくうとなり

卧氷求鯉

晉王祥字休徵。早喪母。繼母朱氏不慈。父前數譖之。由是失愛於父。母嘗欲食生魚。時天寒氷凍。祥解衣卧氷求之。氷忽自解。雙鯉躍出。持歸供母。

詩曰

繼母人間有。王祥天下無。
至今河水上。一片卧氷模

晉代に王祥といふ人ありけり。母そしれこの後の母朱氏王祥をいとなみあしく王祥が父のまへにてもそしりくるしめかまへられければ父もまことをうしなひ王祥をうとかの後母あの河なる魚をとらんといへば月寒くして氷ことごとくこほり王祥河のわたりにゆきて氷をあつくこほりあるを魚をとらんとすれば王祥衣をぬぎ氷の上に卧しかの氷とけ中より二つの鯉とび出てこれを母の食にそなへ[illegible]

○詩意は繼母こゝにあることのハ多くの人の中にはまれにぬるものの多し王祥ごとき天下に二人なしいにしへ今の世にいたるまで王祥の魚をとりし河乃河よ氷のうへの模しるかたちが今のこゝにのこりけり

為母埋兒

漢郭巨家貧有三歲。母嘗減食與之。巨謂妻曰。貧乏不能供母。子又分母之食。盍埋此子。及掘坑三尺得黃金一釜。上云。天賜郭巨。官不得取。民不得奪。

詩曰

郭巨思供給。埋兒願母存。黃金天所賜。光彩照寒門。

後漢の代郭巨はまづしくあそこつかれるなり。郭巨が母ふぢのもの食をあたへ孫に分ち郭巨これをそ妻にいへら家まづしくて母にうへ食をとること不ならばその上に我ら食をとるとちくしいふく母の食をこばなりゆくこまいふさびうべ母にうべ[illegible]ひて[illegible]

○詩の意郭巨母を中ならんゆとおもひて一つまをたちようべんぐく母のあり[illegible]せんをを[illegible]ぬようこの黄金は天のさはゆおよして黄金のひかり孝の徳とともにひかりかゝやく寒門とまづしき家をてしつてうしーきなり

搤虎救親

晉揚香年十四歳。嘗隨父往田穫粟。父爲虎曳去。時揚香手無寸鉄。惟知有父。而不知有身。踴躍向前搤持虎頸。虎亦麤獷而逝。父終得免於害

詩曰

深山逢白額。努力搏腥風。父子俱無恙。脫禽餐口中

晉の揚香が十四歳の時、父に父の供をしてともに田にゆきて粟をとる時、にわかに虎きたりて父を引くゆえ揚香はとりきぬれども小力をかえりみず、ただ父のこのせつなることを知りひつぐ引わるをとらえ、どうりうをかりらにたがつきうり虎又麤獷とふりもぎりくさうぬこて出ひく父ゆうくと害をまぬかれ

○深山逢白額と条尾る白額のひの猛虎にあひうりくを努力とちうくと知りたくこ分くうり腥風と虎の風を出こを物ゆへ

あいふなはなさき風の虎をもこうつあり母やまともふ

ちくがなくてとれはをのがれさうこと者の波なり餐ハ食くをむさぼりくふとなり

仕孝類

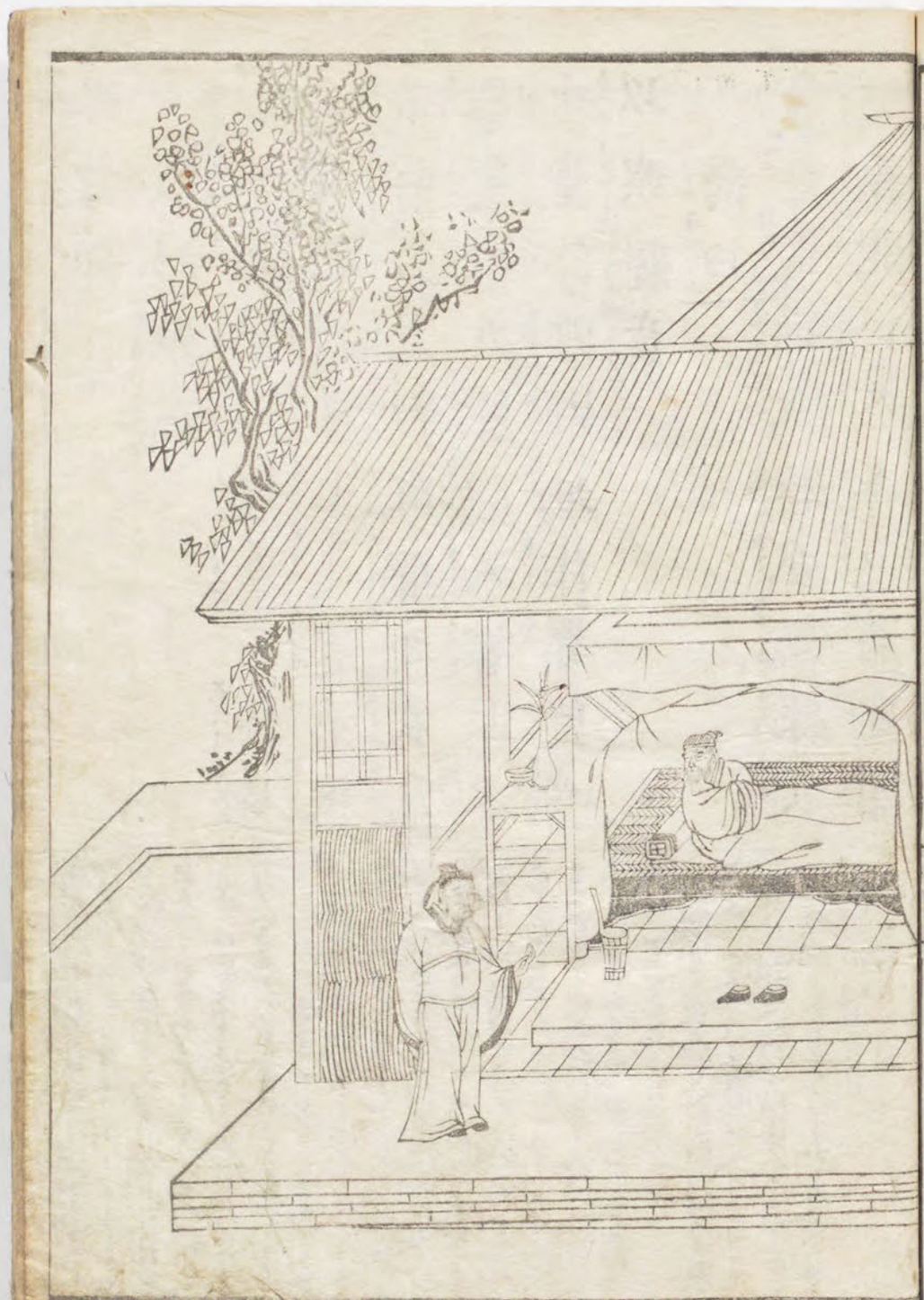
棄官尋母

宋朱壽昌年七歲生母劉氏爲嫡母所姤出嫁。母子不相見者五十歲。神宗朝弃官入秦與家人訣誓不見母不復還後行次同州得之時母七十餘。

詩曰

七歲生离母。參商五十年。
一朝相見面。喜氣動皇天。

宋國の名。朱は燈壽昌は名。ちなみこの母劉氏は父乃妾なり。本妻に嫉しかるゆえ朱家を出されて嫁しかるゆえ壽昌七歲の時母はなれてこれより五十年母にあわざる。神宗とは帝の諡なり。この時皇位をすてて秦の國へ行たるを幸い福人とすべよ立のとちゆえいかるに我母にめぐりあいたいとてひ帰るに国へ出ばりるが秦の国の内よりてうこれも母劉氏ふめひしうさ時母七十餘よりてありしかるゆえ次とはなるべしといふ。母は三人の昌七ヤふて母にとられうる。参高は墨の名この二墨は三度くまれくいつり壽昌と母と世二墨のなくいつりしるあり。一朝面をうん母をめぐりあひしうるあるびはすてふ天をも感動するだろなりと一ひび官をすてるるのはやさび官人とあるるのはなりかさられと孝心の感を帝かんどのひ二度めされてつくさわしこあり



肯糞憂心

南齊庾黔婁爲孱陵令。到縣朱旬日。忽心驚汗流。即弃官歸。時父疾始二日醫曰。欲知瘥劇。但嘗糞苦則佳。黔婁嘗之甜。心甚憂之至夕誓願北辰求以身代父死

詩曰

到縣朱旬日。椿庭遘疾深。願將身代死。北望起憂心。

[illegible]

順孝類

戲彩娛親

周老萊子至孝奉二親極其甘脆行年七十言不稱老嘗着五彩斑爛之衣爲嬰兒戲於親側又嘗取水上堂詐跌卧地作嬰兒啼以娛親意

詩曰

戲舞學嬌癡春風動綵衣雙親開口笑喜色滿庭闈

周の世に老萊子といふ人ありけり。孝行の人なりけり。父母に孝行つくしけり。二人の親に食をすゝめ甘脆の物を奉りてそのうまきものとり取て親くちくちにふくめ味のよき物の脆とやらんなるを食ひ年七十に成ぬれども二親のまへにてとし寄たるをいとゞ嬉しとて五色のいろ〳〵なる小児の服をぬぎかへ小児の戯をまねぶ事と猶のまへにをどり出て小児に成まねをし遊戯といふ者共をあつめさまざまの遊をして親のまへにたはれをどりあそびもてそゞろに親を出つまづきたをれかなしみて涙のどくなるまでうとぞこゑつが老をうと親を老せじとうたいし。弄娯ぶりてどんぜの親を慰めて春の風ふいをどりする衣をうごかすとし二親口をあけてひらひらとわらふ。ひのいろ庭園にちらつきなり園は壹の中の小門なり

拾椹供親

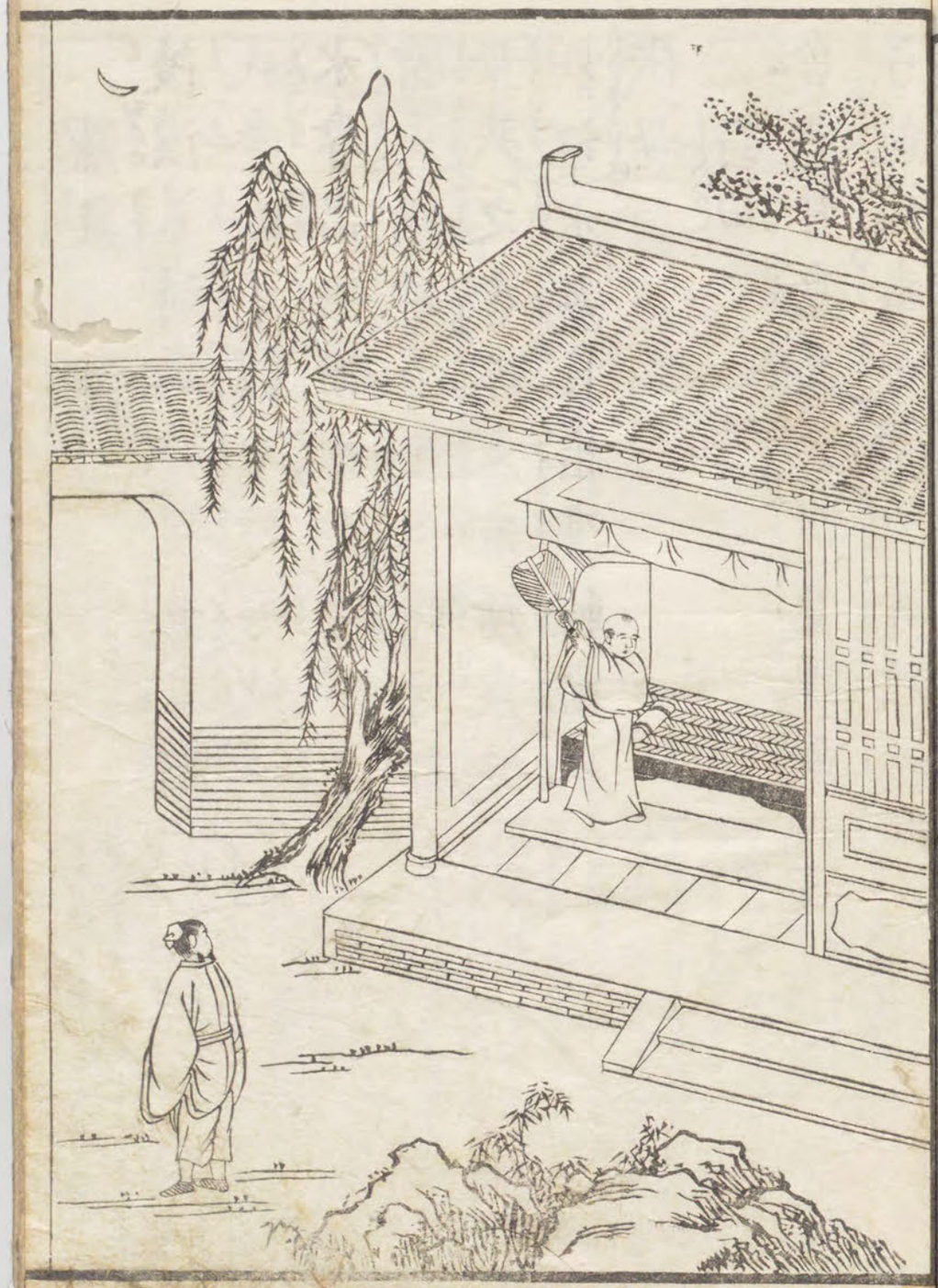
漢蔡順少孤。事母至孝。遭王莽亂歲荒不給。拾桑椹以異器盛之。赤眉賊見而問之。順曰。黒者奉母赤者自食。賊憫其孝以白米三斗牛蹄一隻與之

詩曰

黒椹奉萱闈啼飢淚満衣
赤眉知孝順牛米贈君帰

漢の世の蔡順といふ人ありて父仲といひて孤となる幼き時父なくなりて母ばかりの老いたるを養ひ奉りつゝ若かりしころ王莽といふ人の天下をとりし時米穀なくして飢饉まで食物なし蔡順椹をひろひて母をやしなふ異器といふものにこれをもりて赤眉の賊共来りて見てこれ如何なるものぞと問ひたまふ順答へて曰ふ黒きものは母に奉り赤きものは自ら食せんがためなりと云ひしかばかの賊共憐みて白米三斗と牛の蹄一つとを与へたまふ

○椹はいぬびわの実なり萱闈とは母をいひていふ萱草は諸説区区なれども後草と云樹の非なりとかいてあれども萱草は萱草なりと注あり萱草は宣草ともいひて婦人の身を忘れて帯びすれば男子を産むとかや故に母を萱草といふ蔡順かうして帰る程に赤眉の賊来りて孝心をほめて牛米を与へたまふ君は蔡順をさす



扇枕温衾

後漢黄香年九歳。失母思慕惟切。郷人稱其孝躬執勤苦。事父盡孝。夏天暑熱。扇涼其枕簟。冬天寒冷。以身煖其被席。太守劉護表而異之。

詩曰

冬月温衾煖。炎天扇枕涼。
兒童知人職。千古一黄香

後漢の時黄香いまを文治元年の九歳の時母をうしなひて哀慕こゝろやすからずして郷人せつなり日郷の人その孝あるをかんしゝなり黄香身をつゝしめつゝあ父母をよく夏のこゝろをあ父の孫を傷をあぶぎくすゝしかゝめしとく勤い行なてこのゝるむ冷あり冬の寒きふゝ身をとゝく父の寒をあたゝめしゝあり被とゝ今の敷ぶぎのゝくあり太守劉護とゝふ人かゝく孝の名をゝ世にきこえて黄香門に立しゝあり

○冬の月は衾をあたゝめ夏のこゝろをあまくをこのゝぎくすゝしかゝむ枕をあたゝまるゝ人ゝのなすきつゝをあるゝ古のこゝろ今につゝたゝて黄香一人ありとほめるなり

湧泉躍鯉

後漢姜詩事母至孝。妻麗氏奉姑尤謹。母性好飲江水。妻汲而奉母。又嗜魚膾。夫婦常力作供贍。呼鄰母共之。舍側忽有湧泉。味如江水。每旦出隻鯉。常以供母。

詩曰

舍側甘泉出。一朝隻鯉魚。
子能知事母。婦更孝於姑。

[illegible]

没孝類

聞雷泣墓

晉王裒事親至孝。母存日性怕雷。既卒殯於山林。每遇風雨聞阿香響震之聲。即走至墓所。拜跪泣告曰。裒在此。母勿懼

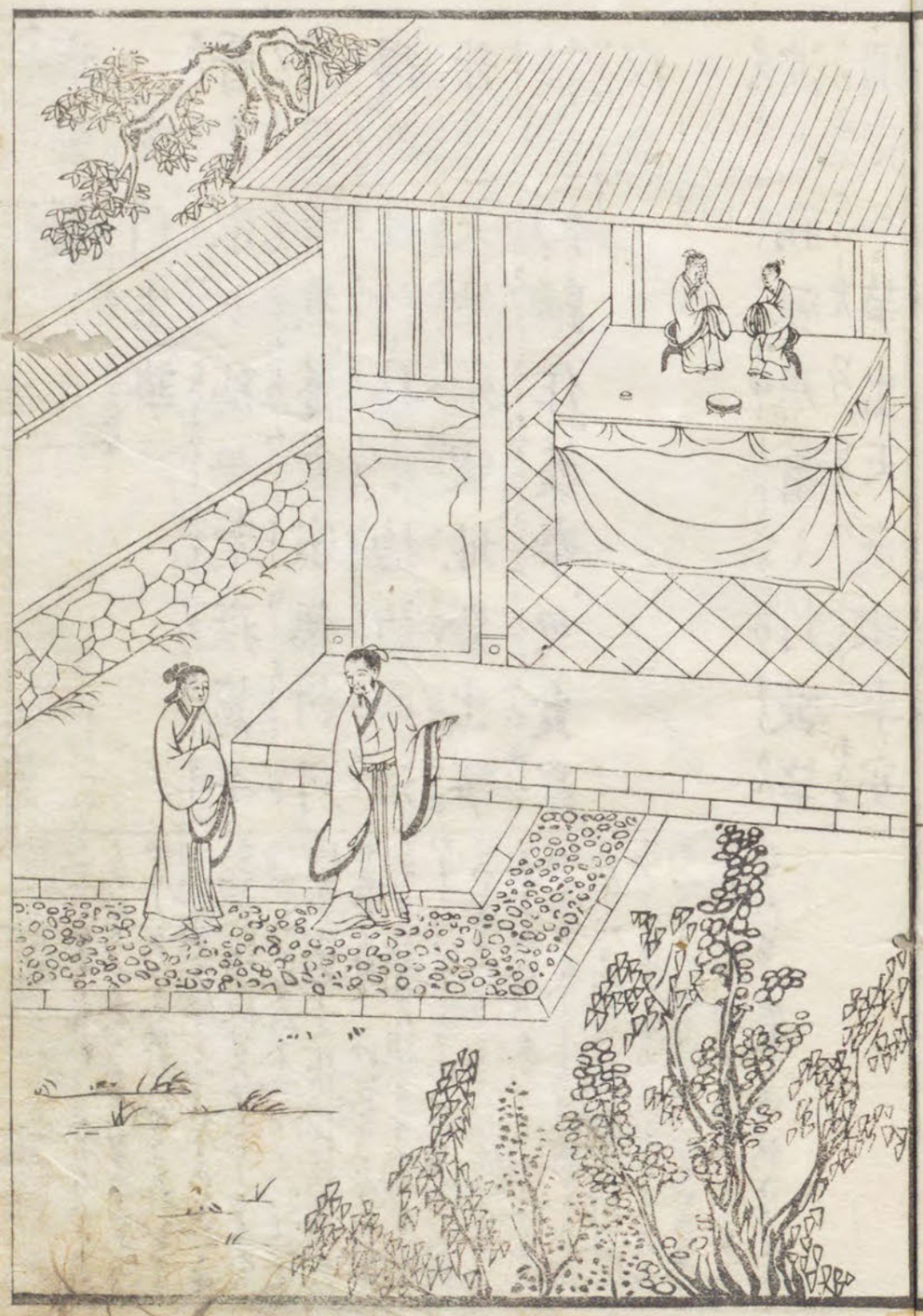
詩曰

慈母怕聞雷。氷魂宿夜臺。阿香時一震。到墓遶千回。

晉の王裒父子ともに偉元といふ。母の姓は[illegible]氏。子孫生れつきかしこくてきこうひろく母死して山林の中にたゝうゝとして後風雨あれば雷の声を聞ばふるへくもりまさに震ゆきひさまづき物をなゝ泣て告ていへらく裒ここに居まつり母くおそれる人事なかれらひしことなかれ

孝家表に晉書を引て伯父王裒父の名儀といふ魏文帝の司馬となりてこの西に向いて坐せず朝廷に昇らざりしといひく父の墓の側に安居して殿堂を設く葉を手且夕墓に向ひて泣りたり墓の柏樹あれば枯うるを王裒侍の家にたる父母我を生く勤労すといふを憂ふいうそ泣なげきなげき事なり一門人是をもつて教の扇をうの陶ざりとなり

○母の雷をきゝておそれが氷魂となり夜臺のもとにやどりてのち雷乃ちふるとき墓にゆきてみづからたゝりめぐりてなげきしとあり阿香は侍御史ふつん西雷乃車を推す故事なり



刻木事親

漢丁蘭幼喪父母。未待奉養而思念飭勞之恩。刻木為像事之如生。其妻久而不敬。以針戲刺其指血出。木像見蘭眼中垂淚。蘭問得其情。蘭將妻即殺之

詩曰

刻木為父母。形容在日時。寄言諸子侄。各要孝親幃

漢の代の丁蘭は母さなき間父母にいつかれてつかうまつりまゐらせけるに父母のつかれをうたがひて父母の形をうつしてこれをあがめ奉りて朝夕にうやまひ敬ひて食をすすめ奉りしに蘭が妻ひさしくなれて木像をうやまはず針をもつてこれをさしければ血出でつきまゐれば血出でうたがひて後に木像蘭をうらみ眼中になみだをうかべて蘭に問ひ奉りしに其ゆへを妻に問ひ給へば妻をさいなみころしてのち木をきざみこの父母をつくりなをし形容のかなしみ孝子の門のでんでん蘭が孝行をうらやんでも世間人のまねをして侄となるものはつげやなりまゐらせるものはその教へにそむいてはなりまゐらせけれども親がひがめてなり勤労とは孝養我慢に哀れみ父母生我の勤労をしるより出さるべし勤労ハ孝子のなりはてるなり

病孝類

哭竹生筍

晉孟宗以孤母老疾篤。冬月思筍煮羮食。宗無計可得。乃往竹林中。抱竹而泣。孝感天地。須臾地裂出筍數莖。持歸作羮奉母。食畢疾愈

詩曰

淚々朔風寒。蕭々竹數竿。須臾冬筍出。天意報平安。

晉の時孟宗といひし人父母を慈愛し孝心篤く仁とくこゝろ世に秀たり父母ともこゝろのごとくなりてあり母そしまいくやまひして母のこれきるべき月朔の筍を思ひくるいたるのぞむ孟宗筍を得ん[illegible]すべきすべもなし竹の林にはひ入て行とはいへども泣るる孝心を天地の神感のかんじあひてたゞちに地裂てたけのこあまた出るを持てゝ帰りあつものとなす母にそなへまいる母筍を食ひ終てのちやまひすこやかにいたりぬ[illegible]涙々寒涼乃典なり朔風と冬の月なれども寒しとあり蕭々とは竹の林の[illegible]数竿とは竹の林の数竿とあり天乃めぐみとは筍の出ひいでゝ平安とは母のやまひいえて平安をしるしたるなり[illegible]をあらはしめぐみひろふ天のこゝろ深ありとく

滌親溺器

宋黄延賢元祐中爲太史。性至孝。身雖貴顯奉母尽誠。毎夕親自爲母滌溺器未嘗一刻不供子職

詩曰

貴顯聞天下。平生孝事親。
親自滌溺器。不用婢妾人。

宋の黄延賢（字を魯直と云）山谷と號せり元祐と宋の哲宗皇帝の時乃年号美山谷大史の官となり身分あつくなりたれども母の年老たるを悲しみて母につかへくんの誠をつくせり夕べにてんぢう母の溺器をあらひて人にもたかせざりなり一時のたゝずまいもてのことの職分をせりとろを尊に見ひらる事なりしとあり溺器はいばりをするうつわものきさきに人名も天下に賞へ人うやまひかしづく身なりとつゝしく孝をもつて母につかへすつうんぐ溺器を向くひ婢妾の人乃もとうとをせざりしとあり婢妾はべつひ乃女をいふ

于時寛政九年丁巳春正月

五老　石川雅望
松齋　茂木寛畫

初頴日記故事　分忠信之部　嗣刻

略解千字文　全一冊　五老山人著　楷篆二體　千字文　文一牧摺折本　訓點ゑのつき

略解孝經　全一冊　五老山人著

暦日詳解　日用の暦の解かしき事　天学の法をひらくるゆゑ

孝經小解　全二冊　熊澤先生著　ひらがなの注解

源氏消息行かへり　橘千蔭先生　全二冊　墨本

御江戸通油町
耕書堂　蔦屋重三郎　發行

耕書堂藏板　御江戸常盤橋御門本町筋北ニ入町目通油町
繪本同錄　蔦屋重三郎

百人一首　古今狂歌囊　宿屋飯盛撰　古今人の後自撰　彩色摺箱入　十丈番　狂歌合　繪本百轉　寄ゝ雅全鶴撰　世ゝ雅全鶴撰　喜多川歌麿画　彩色摺箱入　十冊

五十人一首　東都狂歌文庫　同撰　彩色摺一冊　十丈番　狂歌合　同後編　右ニ同

繪本生写　同撰　歌麿画　彩色摺箱入　繪本武者鼓　北尾重政筆　大本　二冊

狂歌合　汐干狩歌　朱樂管江撰　歌麿画　彩色摺箱入　繪本八十宇治川　同画　三冊

狂歌春遊　繪本和歌東　同画　彩色摺箱入　繪本吾妻鏡　同画　三冊

繪本狂月望　月の名所あらそひ　彩色摺　繪本江戸爵　喜多川歌麿画　三冊

古原契情　美人合自筆鑑　名ゝ美人の筆ぶり　彩色摺　繪本譬喩節　同画　世ゝ美人の筆ぶり　三冊

繪本武將一覽　北尾紅翠齋画　新板出来り世人熟覽のため出す　三冊

繪本武將記錄　同画　右の次編を出版出来せしめ　三冊

繪本武將略傳　同画　武將傳のお編　三冊

繪本武將撮要　同画　通俗のお編　未刻　二冊

繪本武將記支　同画　撮要のお編　未刻　二冊

繪本百福壽　同画　未刻　長壽と福祐の人傳　二冊

繪本百福壽後編　同画　世編にて百小充る　三冊

画圖勢勇談　島山石燕先生の筆彼のくらいぶんと　三冊

江戸名所百首後編　繪本吾妻鏡　寄こ羅金鶏撰　江戸社寺図を画く　八冊

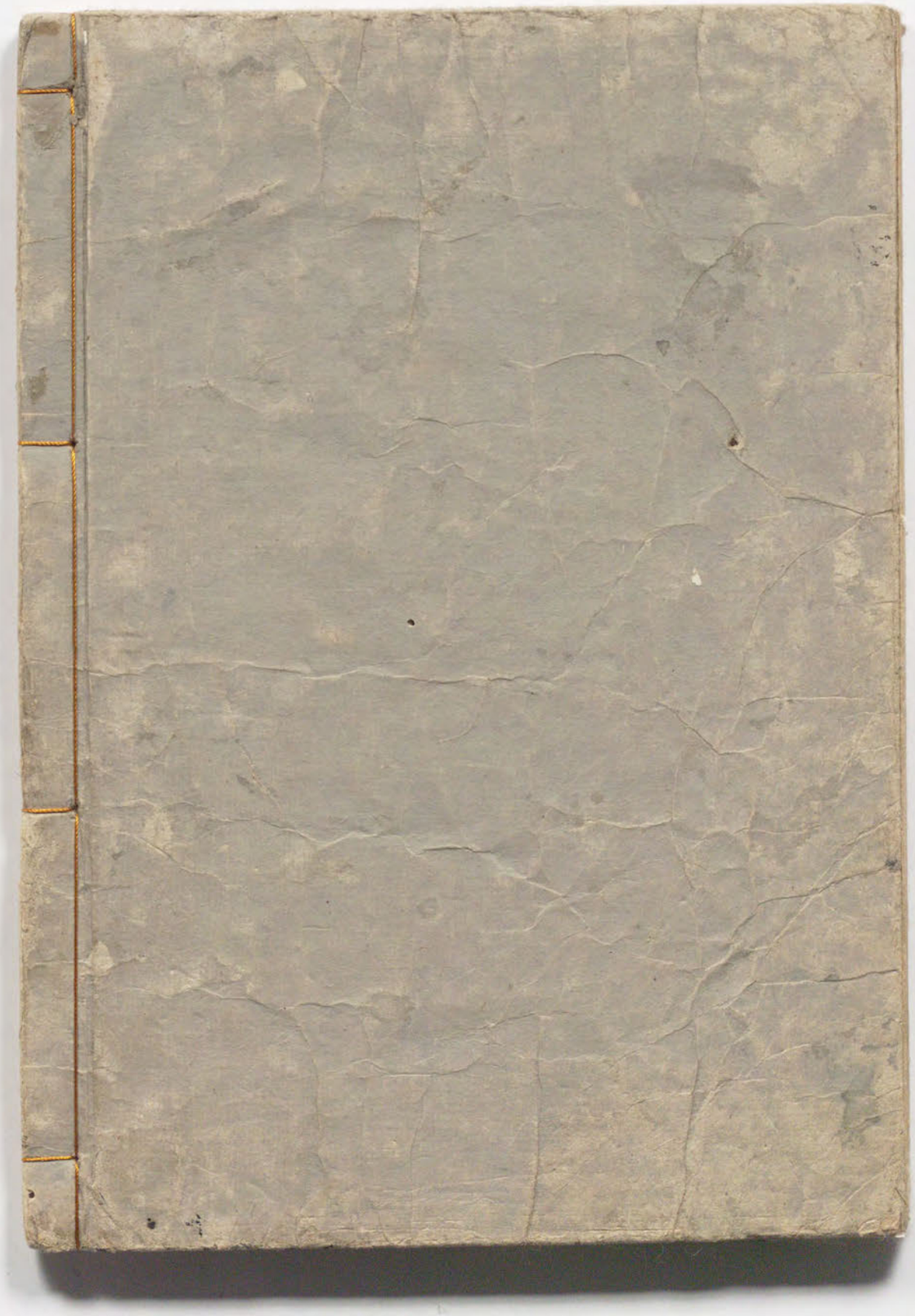
繪本駿河鈴　同撰　三冊

繪本嬉見童　北尾紅翠齋画　子供のあそびのようすを画き　三冊

同　後編　同画　右ふりがなを等　三冊

繪本笑婦兒　同画　女子のあそびのようすを画く　三冊

繪本詞乃花　喜多川歌麿画　二冊

繪本花の雲　同画　さくらの名所を採り彩色摺絵入　二冊

繪本　源世裏　同画　東中の景を画く　彩色摺絵入　二冊